公益財団法人愛知教育文化振興会

教育と文化

No.139
令和7年11月



Contents

P2　巻頭言　学校現場が必要とする刊行物を届けたい

P4　三河の文化を訪ねて
「祭りを彩る細工人形と菊人形」　吉浜小（高浜）

P6　特集　刊行物にかかる取組紹介

P10　刊行物の活用紹介「ひらがな・かたかな」の活用法
～「上手に書きたい」を実現するノート～
野田小（田原）

P11　教室の窓辺「考動力のある子どもたちに」
丈山小（安城）

P12　特色ある教育活動
「自ら問いを見つけ、学び続ける生徒」の育成
大塚中（蒲郡）

P13　令和７年度　個人研究助成

P16　文振だより

巻頭言

学校現場が必要とする 刊行物を届けたい



公益財団法人愛知教育文化振興会　常務理事　天野　明典

愛知教育文化振興会は、昭和32年に設立され、今年度で68年目を迎えています。昭和、平成、令和と時代は流れ、教育を取り巻く環境も大きく変化してきました。それに対応するよう本法人も事業等の改善を重ね、三河教育の充実・発展に努めてまいりました。しかし、最近は、児童生徒数の減少、タブレット端末等の活用による学習形態の変容、公費採用の減少、教員の働き方改革の推進等により、刊行物販売の収益は減少傾向にあり、本法人の経営にも影響が出始めています。しかし、厳しい状況であるからこそ、本法人の理念である「学校現場を大切にする姿勢」を維持していきたいと強く考えています。

刊行事業を行う以上

昭和53年に、本法人の理事長であった後藤金好先生が、「会報」第1号で刊行事業について、次のように述べられています。

刊行事業を行う以上、「現場からの要求に応じ、現場の必要を満たすものにしたいのが最高の願いというものである。そこで、2年前から三河教育研究会に委嘱して、各種目ごとに編集委員会を構成し、その委員会の責任において精選され充実した内容で、しかも子供たちに親しまれ愛されるものに育てていただくよう期待してきた。幸いに各委員会とも、極めて研究的に、また、意欲的に仕事を進められていることは、心強い限りである。要するに、現場がどうしても必要とするものを、委員たちの惜しみなき協力によって、十分にその要求を満たしうる形に仕上げていただき、その成果を現場に届けたいのである。」

学校現場の要望を大切にする

本法人の刊行物の強みは、三河教育研究会の部会長・支部長をはじめ、三河の各小中学校の校長先生方から推薦された現役の先生が、編集をしてくださっていることです。現在35の編集委員会があり、編集委員長・副委員長を含め、のべ475名の先生方に参加していただいています。刊行物を使って実際に指導をしている先生方、そして、目の前にいる児童生徒の生の反応を見ている先生方が編集しているからこそ、学校現場の要望を直接反映した刊行物とすることができています。

モニター制度で要望をとらえる

さらに、本法人では、3種類のモニターを実施しています。一つ目は、現場の先生方の声を聞く「学校モニター」です。アンケート項目は、編集委員会で決め、実際に使用した感想や問題点・改善策についてご意見をいただき、翌年度の編集に生かすようにしています。二つ目は、「郡市等モニター」です。教育委員会の教科指導員等の協力を得て、専門的な目で刊行物を評価し、修正すべき点等を報告していただきます。以前は11月末を回答期限にしていましたが、令和6年度からは、その年の夏休みを終えるまでと変更しました。これは、郡市等モニターによる意見をその年度内の編集委員会で吟味し、次年度の刊行物にすぐに生かすためです。令和6年度は、提出していただいた意見の50％ほどを改善に役立てることができました。三つ目は、「モニターＢＯＸ」です。学校モニターではない学校の先生でも、保護者でも、そして、実際に使っている児童生徒の皆さんでも意見を寄せられるようにしたもので、令和6年度からホームページ上に開設しました。一例として、学校現場の先生から、「英語の学習」の名前を書く欄に4線を付してほしいという意見をいただき、すぐに改善につなげました。意見がもっと多く出されるように、教職員・保護者・児童生徒の皆さんに、さらに呼び掛けていきたいと考えています。



編集委員会の様子
本年度から、状況に応じてテレビ会議での参加も可能にしています。



本法人のホームページ
トップページに「モニターＢＯＸ」のバナー（赤枠）があります。

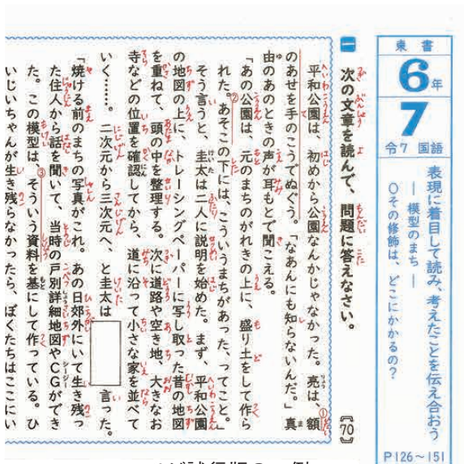
複式学級の児童にも毎年最新版を届ける

複式学級において、複式カリキュラム（上下2学年で学習する内容を、それぞれA年度・B年度の二つに分けて学習する教育課程）を実施している小学校が、本法人の「学習類」の4教科（国語・社会・理科・英語）を使用する際は、下学年（1・3・5年）の時に、上学年（2・4・6年）用も併せて購入し、2年間で使用することになっています。しかし、この「学習類」は、毎年3分の1以内の改訂をしますので、下学年で購入した時は最新版を使用できますが、翌年、上学年になったときには、1年前の刊行物を使用せざるを得ませんでした。

児童や保護者から、「上学年になったときにも最新版の学習類を使用したい。」という要望が出ていることを聞きました。そこで、この問題の解決に向けて検討し、印刷会社と協議を重ねた結果、令和7年度から上学年での使用分を印刷会社から無償で提供していただくことができるようになりました。現場の先生から、「上学年になったときにも、下学年の児童と同じ最新版の学習類を使用することができるようになり、本当にありがたい。保護者や児童も喜んでいる。」という声が寄せられています。

「学習・演習類」にルビを付ける

外国籍や特別な学習支援を要する児童生徒への配慮として、以前から、小学校の「学習類」・中学校の「演習類」にルビを付けてほしいという要望がありました。しかし、ルビ付きのものを印刷会社に作成してもらうと、新たな版を起こす必要があるため、予算上ルビを付けることはなかなか困難でした。そこで、法人内で検討を重ねた結果、ようやく今年度、手書きにはなりますが、ルビを付けることに目途が立ちました。試作したルビ付きの「学習・演習類」を現場で使用していただき、ご意見を伺いたいと考えています。



ルビ試行版の一例
使用感を聞き、今後の参考としていきます。

人形のまち・吉浜
祭りを彩る 細工人形と菊人形

高浜市立吉浜小学校教頭　増田　洋喜

毎年5月上旬に行われる「花のとう」（春の作占い行事）の際に、吉浜地区の宝満寺と柳池院に細工人形が奉納されます。細工人形は自然の素材で飾った等身大の人形を使い、歌舞伎やドラマの名場面、歴史上の出来事などを再現するものです。

11月上旬に行われる「人形小路菊まつり」の際には、菊師の手がける菊人形が会場に展示されます。

細工人形には木の実や貝殻などが、菊人形には根が付いたままの生きた菊が装飾の材料として用いられます。実はこの二つの人形には共通点があり、これらの装飾を取り付けるベースとなる胴殻の部分は全く同じ構造なのです。

細工人形の起源

細工人形の起源についてはいくつかの資料があります。柳池院の縁起によると、堂宇再建を喜んだ地域の人々が作って飾ったのが始まりとされています。昭和9年発行の冊子『吉浜細工人形を語る』では、安政4年（1856）の宝満寺の御開帳に際して飾られた作り物が「現在の細工人形の根底であり、出発である」と記されています。

さらに同冊子には、明治26年に行われた柳池院の御開帳の際、自然の素材だけを使って装飾する吉浜地区ならではの形が確立されたと記述されています。

その後については、『高浜市誌』に記録が残っており、明治35年から柳池院の「花のとう」に合わせて細工人形の公開が始まり、翌年には宝満寺の会場も加わり、新作を披露する恒例行事になっていったと記されています。

菊人形の起源

菊人形の歴史は、江戸時代の文化年間に江戸で流行した菊細工が始まりです。初めは富士山などの名所の風景や獅子などの動物を菊でかたどった作り物でしたが、遅くとも天保年間には頭を付けた人形を使ってストーリーを再現して見せる現在の形に近い菊人形が作られていたようです。



明治9年、東京では都の許可が出て、観客から入場料を取って菊人形を見せる興行が始まりました。名古屋でも明治20年代中頃に黄花園が菊人形の興行を行う会場を万松寺（名古屋市中区）境内に開設しています。菊人形が全国で流行していく中で、職人の発掘と育成は切迫した課題でした。

細工人形と菊人形の盛衰

吉浜地区の菊師たちは、最初は苦労しながらも、プロの集まる興行の現場で職人としての腕を磨いていきました。万松寺での興行が盛んになると、吉浜地区の菊師も名古屋だけでなく全国各地へ出向くようになり、また現場を取り仕切る親方として活躍する者も現れました。菊人形の仕事は、吉浜地区の人々の貴重な収入源となると同時に、習得した知識や技術が細工人形にも反映され、細工人形もさらに見応えのある洗練された出し物に発展していきます。大正期には行われなかった御開帳ですが、昭和3年に宝満寺、昭和9年に柳池院で開催されると、細工人形が飾られ、露店やサーカスなども並び、大盛況となりました。20場面以上を見せる大がかりな展示になっても従来どおり観覧料は取らずに公開しました。それでも、番付（リーフレット）や絵葉書の売り上げ、御開帳のお賽銭で地域は潤い、神明社本殿や芝居小屋の建設費用の一部にも充てられました。

このように広く楽しまれるようになった細工人形でしたが、昭和20年代は戦後の混乱や卓越した技能をもつ職人の高齢化により、勢いに衰えが見られ始めます。そこで昭和30年に吉浜細工人形芸術保存会（現在の吉浜細工人形保存会）が発足し、技術の保存や後継者の養成に取りかかり、昭和39年には「吉浜細工人形つくり」として愛知県の無形文化財に指定されました。



番付（リーフレット）

一方で、菊人形興行は戦後復興期から高度経済成長期にかけて再び全国で盛んに開催されるようになり、吉浜地区の菊師たちが全国の会場で菊人形作りに励みました。平成に入ると、嗜好の変化や後継者不足等により、興行としての菊人形は縮小に向かいました。こうした背景から、平成28年に「菊人形づくり」が高浜市無形文化財に指定されたのです。

細工人形・菊人形の制作過程

①殻組み（胴殻作り）

人形の体になる胴殻は、巻藁と呼ばれる、藁で包んだ竹ひごに糸を螺旋状に巻いたものを組み合わせて作ります。まず、人形にする人物の年齢や性別、背格好などを考えて調整した芯木を支柱に固定し、それに巻藁をめぐらせます。次に身分や職業に合わせた衣装を形作ります。物語の場面にふさわしいポーズをつけて、観客が思い描くイメージどおりの人形を作るには、主題のあらすじやキャラクターを念頭に置いて胴殻を作ることが必要です。高い教養と、それを造形に落とし込む表現力が求められ、細工人形・菊人形作りの工程で最も熟練を要する工程です。



胴殻作り

②細工（装飾）

細工人形いちばんの特色は、衣装に施される細工です。自然の素材の持ち味を生かし、仕上げていきます。一見した時に何でできているか分からず、細部を観察してはじめて材料の正体に気づくような意外性が細工人形の醍醐味です。質素な材料と鮮やかなできばえのギャップが大きければ大きいほど面白味が増します。吉浜地区の人々は素材の調達に傾ける情熱が強く、設楽町の段戸の山中までコケ類の採集に行ったというエピソードも残っています。

細工人形

③菊付け

菊人形には、菊師が扱いやすい「人形菊」と呼ばれる特別な菊が用いられます。花が先端に集中し、枝がよくしなり、根の量が多い菊です。根ごと掘り出した菊を使うので、花が美しい状態で長持ちするように根を湿らせておく必要があります。そこで、根を水苔で包む根巻きを施します。この部分は玉と呼ばれます。菊人形一体につき、およそ百株以上の菊が必要になるそうです。菊付けの作業では、玉の位置が花より上に来るようにして菊を胴殻の中に差し込み、枝にひねりを加えながらU字型に曲げ、巻藁にくくり付けます。菊が少ないと胴殻が透けて見えてしまい、また多すぎると厚みで胴殻の形がぼやけてしまうので、適量を見極めるのが肝心です。特に難しいのは左右の襟が重なる部分で、菊を上手に操ってV字状に開いた着物ならではの形をくっきりと表現しなければなりません。

人形一体の菊付けを完了するには、熟練の職人でも丸一日は必要です。本校の子どもたちも、総合的な学習の時間等を使って、地域の方と菊を栽培し、胴殻を作り、この難しい菊付けにも挑戦しています。

歩いてみたい「人形小路」

県の無形文化財に指定されている吉浜細工人形を見ながら散策を楽しめる約800mの散策路「人形小路」が整備されています。道中には細工人形が展示された無料休憩所や、本稿でも紹介した宝満寺、柳池院などがあり、のんびりと散策が楽しめます。休日にぜひお越しください。

人形小路の会HP

菊付けに挑戦する子どもたち



菊付けの途中過程

主たる参考文献
「新編高浜市誌　高浜市のあゆみ」

特　集



刊行物にかかる取組紹介



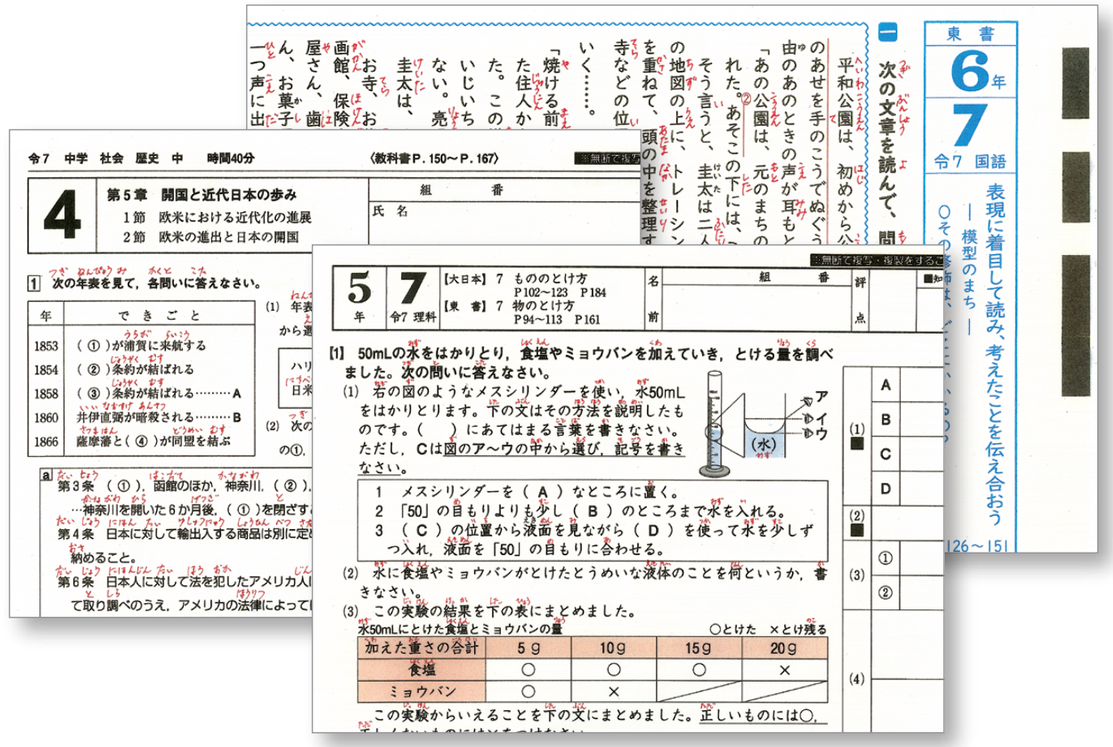
三河の子どもたち、先生方にとって「役に立つ」「魅力ある」刊行物にするための取組、また、刊行物を有効に活用してもらうための取組を紹介します。

取組 ①　「学習・演習類」ルビ版の作成

日本語指導をはじめ、さまざまな学習支援を必要とする児童生徒が増加する中、特に「学習・演習類」ルビ版の作成を望む声が増えてきました。そこで、先生方のルビ振りの負担を少しでも軽減するため、手書きによるルビ版を作成し、PDFに変換して提供する方向で準備を進めています。

現在、９月以降に使用予定の令和７年度版「学習・演習類」の一部でルビ試行版を作成し、本法人ホームページに掲載しています。試行版は、すべての学校で活用でき、文振版リアテンダントにも対応していますので、各学校で積極的に使用していただき、その感想等をお寄せください。

みなさんからの声を生かし、どの子にとっても使いやすい令和８年度版の「学習・演習類」ルビ版を順次作成していきます。



取組 ②　QRコード先資料の充実

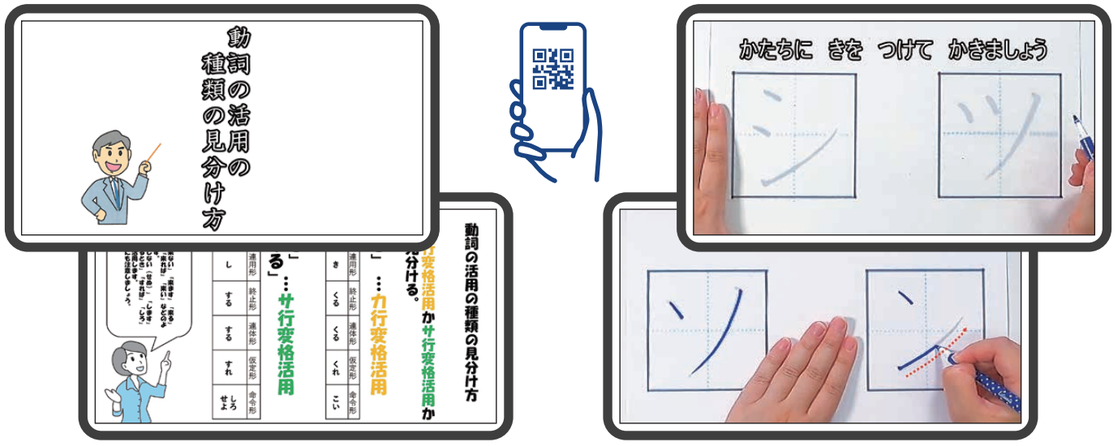
多くの刊行物にQRコードを付し、子どもたちが関心を高め、理解を深める資料につなげたり、発展問題に取り組めたりできるよう工夫をしています。特徴的なものをいくつか紹介します。

『ことばのきまり（中）』

特に丁寧な説明が必要な部分では、解説を動画で視聴できます。

『ひらがな・かたかな』

特に気をつけたい文字の書き方を、動画で視聴できます。



『ふえのひびき』

模範演奏やピアノ等の伴奏を聴くことができます。

「ミッキーマウスマーチ」

模範演奏　伴奏

「まほうの鈴」

模範演奏　伴奏

『親と子の自然観察ガイド』

紹介された昆虫や自然遊びなどを動画で視聴できます。



『楽しい読書』

関連する本やその内容を紹介しています。



この他に、関係機関のホームページ等につながるもの、優れた過去の作品を見ることのできるものなど多岐にわたるコンテンツを用意し、年々充実させています。

取組 ③　「楽しい読書」全学年セット販売

　小学校の６年間で楽しい読書体験をすることは、生涯学習の礎となる読書習慣を身につけるうえで大切なことです。「楽しい読書」は、子どもたちの読書体験を後押しすることを目的に、発達段階を考慮して編集・刊行されています。

　過日、三河教育研究会を通じて実施した「小学生の読書活動にかかるアンケート」では、「楽しい読書」は、学級文庫や図書館に配架するのが効果的だとの回答が73％を占めました。そこで、少しでも子どもたちの近くに本書を届けたいという思いから、全学年セット販売を企画しました。

　学級文庫や図書館に配架していただき、「楽しい読書」を身近に置くことで、多くの子どもたちが本書を手にとってくれることを期待しています。



「楽しい読書」全学年セット販売の概要

1　対象刊行物

『楽しい読書』１～６年版（ISBNコード付）
（３・６年は令和７年度、２・５年は令和６年度、１・４年は令和５年度の改訂版）

2　頒価

全学年セット頒価2,000円(税込)　／　単品頒価580円(税込)

3　注文・納品・支払方法

（１）各学校に配付したちらしに付したQRコードから注文画面に入り、必要事項を入力のうえ、送信してください。
従来の注文システムでは注文できませんのでご注意ください。

（２）セットのみ、単品のみ、セットと単品の組み合わせなど、どの形でもご注文可能です。

（３）当面の締切は、令和8年2月20日㈮とし、それまでの注文分は(4)(5)の対応となります。その後も同じQRコードから注文は可能ですが、納品は遅れます。

（４）納品は、令和８年５月の学校事務担当者会で、各学校の担当者に請求書とともに直接お渡しします。

（５）支払は、８年度予算で、７月末までを目途に振り込んでください（振込手数料はご負担願います）。

（６）学校図書費（公費）でもご購入いただけます。

取組 ④　「学級活動アイデア集(中学校用)」の刊行

　「中学生の学級活動」と「中学生の安全」を統合し、教師用刊行物としていく準備を進めています。

　この一冊で、学級活動の指導の流れが一目でわかり、適切な教材も入手できるようにしていきます。

　現時点での構想及び計画を紹介します。



「学級活動アイデア集(中学校用)」の概要

1　目的

学級づくりや安全指導の参考となるよう、生徒用としてではなく、
三河地域の全中学校教員、特に若手の先生方の活用を願って作成します。

2　紙面構成

項目ごとに「個人の学びや考察 → グループでの交流 → 学級全体での話し合い」という流れで指導を進められるように編集します。

3　活用場面

授業だけでなく、朝の帯学習等の短時間でも活用できるように編集します。

4　各種利点

・各学級の実態に合った形に編集できるように、すべてのワークシートをワードで作成し、QRコードを通してダウンロードできるようにします。
・ワークシートは、「キャリア・パスポート」の一部として利用可能なものにします。
・授業で生かせる最新資料をQRコードで掲載します。

5　刊行計画

令和８年度は、本法人のホームページでPDF版試案を配信し、全中学校が無償で活用できるようにします。そして、上記内容について広くご意見をいただきながら改善を図り、令和９年度に「学級活動アイデア集(中学校用)」を刊行する予定です。

取組 ⑤　「せいかつかノート」採用校に「親と子の自然観察ガイド」を進呈

　手にした子どもたちからたいへん評判のよい「親と子の自然観察ガイド」を、より広く活用していただけるように、以下の取組を行います。



1 進呈内容

「せいかつかノート」を採用していただいた学校に対し、関連の深い「親と子の自然観察ガイド」を教師用として採用学級分進呈します。

2 活用方法

「親と子の自然観察ガイド」にあるQRコードから、動画や写真を見せたり、冊子の内容を生活科の指導に役立てたりするなど、生活科指導用資料として有効に活用してください。

「ひらがな・かたかな」の活用法

「上手に書きたい」を実現するノート

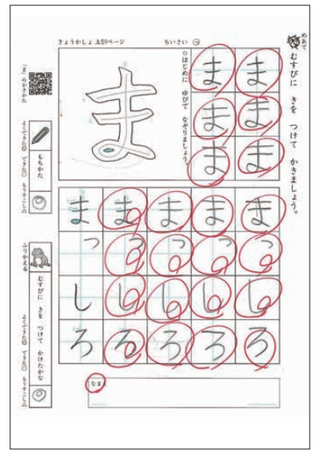
田原市立野田小学校　教諭　影山　温子

小学校に入学し、いよいよ文字の学習が始まります。始めはひらがなで自分の名前を書くことも心もとなかった子どもたちが、自分の思いどおりの文字が書けたときには、とても満足気な表情を見せてくれます。そんな子どもたちの筆記技能の定着のため、本校では、国語の授業で「ひらがな・かたかな」を活用しています。この教材には、子どもたちの「上手に書きたい」という思いを支援するさまざまな工夫がされており、1年生の国語の授業では、なくてはならないものとなっています。



教科書で学習したら、すぐ練習

まだ授業に慣れていない1年生にとっては、教師に指示されたページを開くのも大変なことです。「ひらがな・かたかな」では、教科書で扱う順に文字の練習ができるようになっているので、順番に練習ができるという利点があります。さらに、1ページ、または見開き2ページの中に、めあて・字の練習・ふりかえりが収められているので、子どもたちにとって、今日は何を意識して練習すればよいのかがわかりやすくなっています。そして、教科書での学習後に「ひらがな・かたかな」で練習することを習慣化すると、「今日は、まっしろのまの練習だね。」「先生、ひらがな・かたかなをやっていい?」など、教師の指示がなくても、子どもたちから進んで取り組むようになります。さらに、めあてが明確なので、指導者は丸付けや直しもしやすいのです。



「ま」の練習

よい姿勢と書きやすい持ち方

整った文字を効率よく書くためには、よい姿勢と書きやすい筆記用具の持ち方で書くことが必要です。「ひらがな・かたかな」の始めのページには、「じをかくしせい」と「かきやすいもちかた」が載っています。そして、ほとんどのページに鉛筆の持ち方をふりかえる項目があります。始めは鉛筆を正しく持てていた子どもたちも、回数を重ねるごとに崩れた持ち方になってくることがあります。しかし、文字の練習後、毎回、鉛筆の持ち方をふりかえることで、書きやすい持ち方で書こうという意識が継続されます。

間違えやすい字はQRコードで確認

「つ」や「し」などの一画のひらがなは書けても、「あ」や「ぬ」などの画数が多かったり、結びがあったりする文字になると、形をとらえて書くことが難しくなります。そのようなときの支援となるのが、書き方のポイントがわかる動画です。この動画のQRコードが、書き方を間違えやすいひらがなやかたかなを練習するページに載っており、子どもたちがわからないと思ったときに、すぐに確認できるようになっています。特に、書くときに注意が必要なかたかなである「ソ」や「ン」、「ツ」や「シ」などは、動画で繰り返し確認することで、正しい書き方につながりました。

上手に書けるようになった喜び

「ひらがな・かたかな」には、多くのページで名前を書く枠が出てきます。縦書きだったり、横書きだったり、ページによって書き方は変わってきます。始めはぎこちなかった子どもたちの字が、回数を重ねるにつれて、どんどん上達していくのがわかります。始めの字と見比べて、「名前の字が上手になったね。」と声をかけると、子どもたちは、とても嬉しそうな表情を見せてくれます。


上手に書きたい！



教室の窓辺

考動力のある子どもたちに

安城市立丈山小学校　教諭　石川　昂季

今年度は教員生活7度目の6年生担任。今までの経験を糧に最高の学級・学年をつくろうと日々子どもたちと向き合っています。

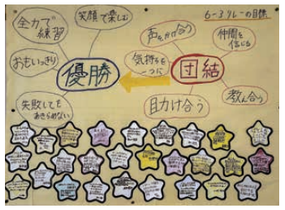
私は、子どもたちが自ら考え、進んで動いていく「考動」という言葉を大切にしています。5月に行われた丈山小スポーツフェスティバルの「学級対抗リレー」では、多くの場面で子どもたちが自ら考動し、輝いている姿が見られましたので、紹介いたします。

4月、リーダーを集め、「リレーの目標は何にする?」と声をかけました。リーダーは考動し、話し合いを何度も重ね「団結」「優勝」という二つの目標を柱とすることに決まりました。ほどなく子どもたちは目標達成に向けて練習を始めました。しかし、子どもたち同士の思いの差から、練習に集まる時間が遅くなったり、やる気のないような練習をしたりといった姿が見られます。そこで、リーダーの思いに寄り添い、「目標を達成させるためには何をしたらいいと思う?」と投げかけると、新たな考動が始まり、案をもって何度も相談に来るようになりました。練習が始まって一週間後、リーダーは「先生、チームのみんなと話し合いたい。」と言い出し、何度もチームで会議をするようになりました。リーダーは友達の思いを聴きながら、問題点を解決しようと、さまざまなアイデアを出しました。そんなリーダーの動きを見て、学級全体に火が付いたのです。

子どもたちのアイデアは無限大です。バトンパスのコツを学級の情報共有アプリ（チームズ）にアップする子、ホワイトボードにコツをまとめて確認できるようにする子、応援グッズや応援歌を作り始める子、円陣で気合を入れようと提案する子など、一人一人が考動する姿が増えてきました。

このような子どもたちを見て、私が大切にしたのは、一人一人の考動をキャッチし、そのがんばりや温かさを学級通信や言葉がけで学級に広めていくことです。本番前、仲間を鼓舞する一人のメッセージがたくさんの子どもの心を動かし、最高潮の状態で本番に向かうことができました。結果は三位でしたが、子どもたちの振り返りには、「がんばった結果だから受け入れられたし、とても清々しかった。」「一人の考動が、みんなの考動に変わったのがすごい。」「団結という意味では優勝だ。」との記述があり、達成感や自分たちの成長を感じている言葉が溢れていました。この一年で、この子たちはどれだけ伸びるのか、とても楽しみです。

私は、見通しをもち、効果的に行事を活用すれば、子ども一人一人はもちろん、学級・学年が大きく成長すると考えています。教師自身が目指す子どもの姿をイメージし、そのために何が必要か準備して考動すれば、子どもはどんどん伸びていくでしょう。この先も、子どもたちと本気で向き合い、ともに成長していきたいです。



みんなで決めた目標


リレー後にみんなで乾杯！

石川昂季教諭は、本校に赴任して7年目となりました。今年度は、昨年度に引き続き6年生の学年主任として活躍中です。石川教諭が大切にしている言葉に「考動」があります。子どもが望んでいることは何か、悩んでいることは何かを常に考え、子どもに寄り添い、子どもの成長をイメージしてアグレッシブに考動しています。

5月のスポーツフェスティバルは、学級づくりの第一歩となる行事でした。授業日以上の発行を数える学級通信は、子どもたちの考動を支え、認め合いの輪を広げています。また、子どもの思いを広げるタブレット端末によるチームズの活用、目標を共有し明確にするための掲示物など、多彩な手だてを駆使して子どもたちの考動を促し、成長を認めています。さらに、結果ではなく過程、記録よりも記憶、自らが考動することを大切にする姿勢が子どもたちを大きく伸ばしています。

子どもたちを成長させるための労力を厭わず、授業研究、行事の企画や運営にとアグレッシブに考動する石川教諭の今後の活躍に期待しています。

（校長　長友　欽哉）

特色ある教育活動

―「郡市教育・研究助成」を生かした取組紹介―

「自ら問いを見つけ、学び続ける生徒」の育成

蒲郡市立大塚中学校長　多田　敦

本校は、ラグーナテンボスの近くに位置する全校約150名の一小一中の小規模校です。互いに気心の知れた仲間が多く、仲間の思いや願いに対して素直に向き合い、努力する姿が見られます。令和4年度に蒲郡市教育委員会から研究委嘱を受け、「学ぶとき、そして学び続けるために大切な要素は何か」という、学びの原点に着目した研究を開始し、令和6年度にその成果を発表しました。

目の前の生徒から「学び」の根っこを探る

本校の生徒たちは少人数集団の環境で育ち、あまり刺激を受けないまま過ごしてきたためか、その場の雰囲気で何となく結論を出してしまう場面が多く見受けられました。この生徒たちがこれからの時代を生き抜くためには、自分の中に芽生えた「あれ?」「こうじゃないのかな?」といった気づきをもとに「問い」をもち、それを多角的な視点から熟考する力が必要だと感じます。そこで、よりよい未来を切り拓くためには、さらに新たな「問い」や「願い」をもち、学びを連続的に積み重ねていくことが、何より重要だと考えました。

どんなアクションを起こせば起爆剤になるか

学びを深めるために何が必要かを検討した結果、以下の3点が不可欠であると結論づけました。①生徒が「問い」を見つけるきっかけをつくること。②個の学びを通じて、自分の考えを整理・構築すること。③仲間とのかかわりの必要性を感じられるような場を意図的に設定し、「問い」の解決につなげる環境を整えること。これらを手立てとして位置づけ、実践に取り組みました。

ある授業場面（問いをもち、かかわり合いへつなぐ）

中学1年社会科「これも外国産?!　食べ物でつながる世界～世界の諸地域とのかかわり～」では、ガマゴリうどんの試食から授業がスタートしました。試食を通して、近年の国産アサリの不漁により輸入アサリが使われていることや、ごま油は地元で製造されているものの、原料のごまや麺は外国産に支えられていることを知りました。そこから、「なぜ外国産の食材を使うのか」という疑問が生まれ、「ガマゴリうどんをこれからも残していくためにはどうすればよいか」「自分にできることは何か」といった個々の「問い」をもって、対話や協議が行われました。

そして「国産の材料だけで作ることは可能か」という共通の課題をもとに意見を出し合い、ガマゴリうどんを通して見えてきた地域の課題について、考えを深めることができました。その結果、話題は蒲郡の自然環境や労働力、気候問題へと広がり、最終的には世の中のさまざまな地域と繋がることの大切さに気づくことができたのです。

質の高い研究の振り返りをめざす

職員による授業後の分科会は学年毎とし、手立てを振り分けてそれぞれの効果について議論を深めました。また、分科会の運営には、多くの職員の意見を吸い上げられるように、ＩＣＴを活用しました。各々が、タブレット端末でＴｅａｍｓに接続し、チャットを活用して意見交換の幅を広げました。一長一短はありましたが、より多くの先生方の意見を集約できたことで、協議会の問題提起や研究成果の整理に大いに役立ちました。

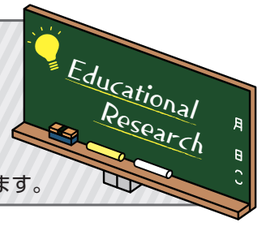
また、今回は東三河教育事務所主催の「小中高特連携教育推進事業　異校種交流会」としての授業交流も兼ねて実施し、多くの方に支えられた研究となりました。今後はさらなる高みをめざし、研究内容の更新、効果的な取組を推進します。


「問い」をもつきっかけづくり


「問い」をもっての協議


ICTを活用した分科会

令和7年度　個人研究助成



本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、１年次研究、２年次研究、３年次研究において、以下の先生方を助成しました。今後は、３年次研究を終え、研究成果論文を提出された先生方を対象に、最終審査を行い、来年２月に優秀論文の表彰式を開催します。

〈1年次〉(213名)

研究領域	郡市	学校名	氏　名
国語(小)	岡崎	連尺小	今井　美羽
	岡崎	本宿小	木村　陽南
	岡崎	上地小	作田　萌恵
	岡崎	小豆坂小	常山友美佳
	岡崎	北野小	宮川　愛加
	豊田	青木小	鈴木　勇輝
	豊田	中金小	長谷川彩音
	安城	安城北部小	大橋　蓮美
	安城	錦町小	河合　優花
	安城	里町小	河合　葉月
	西尾	花ノ木小	松尾　美空
	西尾	西野町小	櫻井　瑞貴
	西尾	矢田小	南本沙也加
	西尾	室場小	南　志帆
	西尾	横須賀小	宮内菜々子
	西尾	横須賀小	渡邊　友稀
	みよし	三吉小	武谷　実来
	幸田	中央小	清家　将太
	豊橋	二川小	吉田　萌
	豊川	一宮西部小	小澤　知世
	蒲郡	形原北小	神納　紅葉
国語(中)	岡崎	甲山中	鈴木　慶輝
	岡崎	常磐中	酒井　優
	岡崎	矢作北中	次井　祥太
	豊田	前林中	石黒　章予
	西尾	東部中	坂下　希実
	西尾	幡豆中	玉置　花那
	西尾	佐久島しおさい	宮川　周
	知立	竜北中	佐波　知幸
	幸田	幸田中	真殿　侑那
	幸田	北部中	倉冨　春花
	豊川	東部中	守田　琴美
	豊川	小坂井中	白井　健太
社会(小)	岡崎	連尺小	内田　敏明
	岡崎	大樹寺小	可知　周平
	岡崎	大樹寺小	福岡　真幸
	碧南	中央小	木下　康大
	刈谷	かりがね小	宇野　奈苗
	豊田	青木小	大杉　冬馬
	安城	明和小	奥村　隼司
	安城	三河安城小	五十嵐智哉
	高浜	高取小	古閑　優月
	豊橋	新川小	樽谷　愛美
	豊川	八南小	倉知　健太
	蒲郡	塩津小	奥澤　和
	蒲郡	大塚小	岡田実沙紀
社会(中)	岡崎	葵中	山田　匠馬
	岡崎	城北中	加藤光一郎
	岡崎	東海中	坂井　麻緒
	岡崎	矢作北中	南　健太郎

研究領域	郡市	学校名	氏　名
社会(中)	岡崎	北中	増田　智
	西尾	平坂中	村松優一郎
	西尾	一色中	新村　耀大
	幸田	北部中	岩本　竜弥
算数(小)	岡崎	梅園小	成田　隆二
	岡崎	緑丘小	川合　隆広
	岡崎	岡崎小	松原　美侑
	岡崎	岡崎小	井戸　望未
	岡崎	連尺小	西村　凌
	岡崎	本宿小	保田　晴香
	岡崎	細川小	内田　竣介
	岡崎	大樹寺小	三島　雄大
	岡崎	六ツ美西部小	鈴木　佑典
	豊田	浄水北小	山際　理恵
	安城	安城南部小	井上　莉沙
	安城	丈山小	明瀬日向子
	西尾	鶴城小	中村　桃奈
	西尾	矢田小	尾﨑　藍梨
	西尾	矢田小	佐藤　有沙
	西尾	矢田小	森　佳奈子
	西尾	矢田小	檜森　思音
	西尾	一色中部小	牧野　桃加
	西尾	一色中部小	黒川　弦太
	高浜	翼小	加藤　知美
	幸田	幸田小	浅井　來夢
	幸田	幸田小	牧　花音
	豊橋	福岡小	内藤　誉貴
	豊川	八南小	後藤　彩那
数学(中)	岡崎	葵中	石原康太郎
	岡崎	城北中	長谷川璃歌
	岡崎	矢作北中	増﨑亜沙美
	安城	安城南中	竹本　圭介
	安城	安城西中	竹田　大一
	西尾	一色中	田島　弘貴
	高浜	高浜中	安井　聡美
	豊川	小坂井中	歳岡　栞奈
	蒲郡	中部中	則武　歩佳
	田原	田原中	渡会　亮介
理科(小)	岡崎	美合小	早川　もも
	岡崎	福岡小	淺野　貴裕
	豊田	浄水北小	松本　織艶
	西尾	矢田小	石踊　凌
	西尾	一色南部小	加藤　毅
	豊橋	高師小	木藤　史也
	蒲郡	塩津小	小笠原　伸
理科(中)	岡崎	六ツ美中	東浦　廉
	岡崎	北中	横山　拓哉
	岡崎	翔南中	大橋　龍人
	刈谷	富士松中	高橋　周聖
	みよし	南中	米本　知子

研究領域	郡市	学校名	氏　名
理科(中)	豊川	音羽中	日比　涼太
	新城	東郷中	松井　優也
	北設	東栄中	古橋　龍馬
音楽(小)	岡崎	六名小	波多野愛子
	岡崎	矢作東小	加藤こころ
	知立	八ツ田小	岡田　薫子
音楽(中)	幸田	南部中	鈴木　風香
	豊橋	羽田中	倉田　瑞枝
	蒲郡	塩津中	小笠原麻衣
図画工作(小)	岡崎	六ツ美北部小	細井　雄介
	北設	田口小	内藤　友理
美術(中)	岡崎	北中	勝田　紗江
	豊川	小坂井中	小林　珀都
家庭(小)	岡崎	六ツ美西部小	土田　裕貴
	蒲郡	形原小	田中　志歩
技術・家庭(中)	岡崎	竜海中	山口　諒
	岡崎	六ツ美中	神谷　幸佑
	西尾	寺津中	竹本　りな
	西尾	吉良中	阿知波大夢
	みよし	南中	岩本　恵
	豊川	御津中	藤井　香
	蒲郡	蒲郡中	松山　元希
体育(小)	岡崎	男川小	伊奈　亨
	岡崎	六名小	大野　雅貴
	岡崎	連尺小	光田　理菜
	岡崎	連尺小	太田　航平
	岡崎	細川小	佐藤　佑哉
	岡崎	六ツ美北部小	安藤　優
	岡崎	六ツ美南部小	小幡　隆洋
	安城	里町小	増田　和紀
	西尾	矢田小	上田俊太朗
	高浜	吉浜小	日野山理香子
	幸田	幸田小	坂本　七海
	豊橋	飯村小	松田　州人
	豊川	御油小	井上　喜友
	田原	若戸小	小久保　旭
	田原	清田小	間瀬　未来
保健体育(中)	岡崎	東海中	有田　海人
	岡崎	矢作中	渡辺麻利名
	岡崎	北中	桂山　李湖
	豊川	小坂井中	名倉　望
	蒲郡	蒲郡中	高橋　大生
	蒲郡	大塚中	佐々木麻緒
	新城	千郷中	丸山　侑加
	田原	赤羽根中	石川　峻平
	北設	東栄中	佐々木崇太
外国語活動・外国語(小)	岡崎	六名小	北山　貴一
	高浜	港小	伊藤　広昂
外国語(中)	岡崎	葵中	西嶋　孝弘
	岡崎	城北中	山田　千紗

● 1～3年次申請の選考を終えて ●

吉野　薫　審査副委員長（豊田市立逢妻中学校長）

本年度の個人研究助成の申請および交付状況は以下のとおりです。

１年次は261点の申請に対して213名への助成、２年次は199点の申請に対して50名への助成、３年次では50点の申請に対して10名への助成を行いました。

１年次では、教科書を教えるだけの自分を振り返り、一人一人の子どもが輝く姿を求めて授業改善に立ち上がる教師の姿がありました。２・３年次では、それまでの手立てにさらに磨きをかけ、子どもたちが「追究の楽しさ」を味わえるように工夫を重ねる教師の姿が見られました。子どもの主体的な学びを支える伴走者として歩む先生方に、未来の教育を託すことができると大きな期待を抱きました。

以下、選考審査において気づいたことを述べます。

＜１年次＞

・地域の人・もの・ことを積極的に教材化し、子どもの思いや願いに寄り添って単元が構想されているものが多く見られました。こうした取組は、子どもにとって学びが自分ごとになる大切なきっかけとなります。一方で、地域とどうかかわることで、どのような子どもの姿を願うのかが曖昧なものもありました。子どものとらえや主題設定の理由を明確にすることで、子どもの学びはさらに深みのあるものとなるでしょう。

・手立てが「授業展開の工夫」、「魅力ある単元や課題の設定」など、具体性に欠けるものが見られました。仮説に対する手立ては、授業レベルにおける具体的な教師の営みとして示しておきたいものです。そうすることで、有効性の検証に説得力が増し、研究の独自性も高まります。

＜２・３年次＞

・子どもの思いを大切にしながら、単元全体を通して問題解決に取り組ませる実践が多く見られました。学んだことを実生活につなげようとする工夫もあり、子どもに学びの価値を実感させようとする教師の熱意が伝わってきました。ただし、魅力的な実践であっても、論述の仕方に課題を感じるものもありました。また、資料不足であったり、逆に論述に不必要な写真が掲載されていたりするものもありました。精選された客観的な資料から読み取れる子どもの姿をもとに、分析的に述べることで、実践はさらに光を放つでしょう。

・かかわり合いにおける学習用タブレット端末の活用を手立てとしているものがありました。これからの授業のあり方に貢献できる、大変意義ある試みです。どの場面で、どのような子どもの姿を目指してその手立てを講じていくのかを構想しておくことで、研究の価値がさらに高まります。

研究成果論文提出者の紹介（令和4～6年度の研究）

令和４年度を研究１年次として、令和６年度までの３年間、着実に研究を推進され、その成果を見事に論文として提出された９名の先生方を紹介します。

Research result report

国　語



豊川・八南小　**山本　真衣**

根拠をもって思いを伝え合い、ともに読みを深め合うことができる子の育成

国　語



刈谷・雁が音中　**高島　　望**

ICT機器を用いて、粘り強く表現を見つめ協同的に考えを深める生徒の育成

社　会



蒲郡・蒲郡東部小　**吉見　暁之**

社会科的な学びを深める過程で、総合的な有能さを獲得していく子の育成

数　学



蒲郡・塩津中　**石原　佳奈**

自ら追究し、学びを実感する生徒を育てる数学学習

理　科



岡崎・翔南中　**松井　昭憲**

実生活で出会う自然事象の理解に向けて、個に学びを委ね他者と協働的に関わり合う中で、自身の学びの深まりや、学ぶ楽しさを感じ取ることのできる生徒の育成

音　楽



刈谷・衣浦小　**河治　真未**

自ら感じ考えて、仲間との関わりの中で表現を磨く子の育成

技術・家庭



高浜・南中　**織田　　楓**

（現　名古屋市立今池中学校）

よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、自ら工夫し創造しようとする生徒の育成

道　徳



岡崎・竜美丘小　**鈴木　幸太**

「自分たちでつくる道徳の授業」

総合的な学習



蒲郡・三谷東小　**小泉　辰十**

自ら追究し続ける子の育成



研究領域	郡市	学校名	氏　名
外国語(中)	豊田	松平中	小野田貴仁
	豊田	若園中	廣瀬　愛依
	豊田	足助中	松山菜々子
	安城	安祥中	藤盛果那美
	高浜	高浜中	竹本　　海
	高浜	高浜中	木原　聡志
	幸田	北部中	市川　亜紀
	蒲郡	蒲郡中	岸本　静香
	蒲郡	中部中	清水　万愛
生活(小)	岡崎	根石小	菅原　雪見
	岡崎	美合小	今村　有佐
	岡崎	連尺小	福田　彩那
	岡崎	連尺小	北　　遥歌
	岡崎	藤川小	松下　望羽
	岡崎	下山小	杉浦　由華
	豊田	中山小	鈴木　紅寧
	安城	高棚小	井上　和奏
	西尾	矢田小	日比野文音
	西尾	荻原小	古居阿佑子
	幸田	荻谷小	松原瀬里奈
	幸田	豊坂小	伊藤早里菜

研究領域	郡市	学校名	氏　名
生活(小)	豊橋	天伯小	和田　香織
	蒲郡	竹島小	山田　芽依
	田原	田原中部小	木村　綾華
道徳(小)	岡崎	根石小	村松　奈央
	岡崎	三島小	新村　栄基
	岡崎	奥殿小	村田　恵瞳
	岡崎	北野小	八木　優光
	豊田	堤小	杉山　貴斗
	豊田	豊松小	清水　駿希
	高浜	港小	藤岡依久江
道徳(中)	蒲郡	蒲郡中	川出　健博
学校保健(小)	豊田	山之手小	山下　　藍
	豊田	駒場小	杉山　里美
	豊田	飯野小	細井　美那
	みよし	北部小	近藤　　香
	新城	鳳来寺小	水越　美早
特別支援教育(小)	岡崎	岩津小	中山　俊介
	豊田	伊保小	風呂谷未幸
	安城	明和小	近藤　百優
	西尾	三和小	横江　知里
	豊橋	天伯小	三世　綸子

研究領域	郡市	学校名	氏　名
特別支援教育(中)	岡崎	城北中	川村　真輝
	豊川	小坂井中	今井　祐斗
総合的な学習(小)	岡崎	六ツ美北部小	杉浦　由菜
	岡崎	六ツ美西部小	杉浦　　諭
	豊田	童子山小	須藤　　涼
	豊田	挙母小	荒殿　梨歩
	安城	桜井小	薄窪　寛之
	西尾	福地北部小	笹川　弓弦
	蒲郡	蒲郡南部小	杉浦　美那
	蒲郡	蒲郡西部小	鈴木　巧人
	蒲郡	大塚小	藤井　安見
	蒲郡	竹島小	松本　　陸
	田原	伊良湖岬小	金田　匡嗣
情報教育(小)	豊田	飯野小	森岡　進弥
情報教育(中)	豊田	竜神中	鈴木　一輝
特別活動(小)	岡崎	美合小	野畑佑紀哉
	豊田	堤小	吉田明花音
	高浜	高浜小	神谷　由依
	豊橋	天伯小	鈴木悠之輔
特別活動(中)	豊橋	羽田中	鈴木　博貴
生活指導(小)	豊田	童子山小	平松　和樹

〈2年次〉(50名)

研究領域	郡市	学校名	氏　名
国語(小)	岡崎	緑丘小	森田　萌衣
	岡崎	六名小	黒柳　萌子
	安城	安城中部小	吉原　理奈
	安城	安城東部小	中森　遥香
	西尾	鶴城小	高木　詞音
	西尾	荻原小	髙須　大喜
	豊橋	老津小	山本　文香
	蒲郡	蒲郡東部小	坪田ちはる
	田原	亀山小	柴田　　賢
国語(中)	蒲郡	塩津中	鈴木　芽生
社会(小)	知立	知立小	木股　和希
社会(中)	刈谷	刈谷南中	古橋　功嗣
算数(小)	岡崎	岩津小	森　　雅琴
	豊田	中山小	大寺　佳祐
	豊橋	豊南小	中川　浩充
	蒲郡	三谷小	中川　侑河
数学(中)	岡崎	翔南中	磯部　　翔

研究領域	郡市	学校名	氏　名
数学(中)	豊橋	五並中	藤城　勇輔
	新城	東郷中	権田　航世
理科(小)	田原	田原中部小	鈴木　健斗
理科(中)	岡崎	北中	磯貝　駿斗
	岡崎	翔南中	柴田　翔平
	岡崎	翔南中	渡邉　翔也
音楽(小)	豊田	大沼小	中野　楓菜
図画工作(小)	岡崎	竜美丘小	横田　　舞
美術(中)	北設	設楽中	市川　仁彩
家庭(小)	刈谷	衣浦小	木下　誠子
体育(小)	岡崎	北野小	福地　美咲
	刈谷	朝日小	牧野　晃大
	西尾	西尾小	加藤よしの
保健体育(中)	新城	東郷中	真田　晃次
外国語(中)	岡崎	甲山中	杉浦　健太
	安城	安祥中	中山　久美
	豊橋	南稜中	志賀　達也

研究領域	郡市	学校名	氏　名
外国語(中)	蒲郡	三谷中	白澤　義顕
	田原	福江中	近並　彩里
生活(小)	岡崎	愛宕小	渡邉　乃恵
	安城	安城東部小	髙野　　翼
	西尾	西尾小	齋藤亜里沙
	蒲郡	中央小	高橋　　彩
特別支援教育(小)	安城	安城南部小	川本二千翔
	安城	桜井小	中野　僚哉
	豊橋	羽根井小	芳賀　紀昌
総合的な学習(小)	碧南	西端小	小島　美保
	蒲郡	蒲郡北部小	冨樫　莉子
	蒲郡	三谷東小	成田　夏凜
情報教育(小)	西尾	福地南部小	岩田　瑠一
特別活動(小)	豊田	浄水北小	三俣　　翔
特別活動(中)	豊田	石野中	根岸　恭志
その他(小)	岡崎	緑丘小	杉浦　美音

〈3年次〉(10名)

研究領域	郡　市	学校名	氏　名	研　究　主　題
国語(小)	岡崎	梅園小	磯田ひかる	登場人物の相互関係や、心情や場面についての描写を捉えることができる国語科の授業
国語(小)	岡崎	梅園小	髙橋　侑也	意欲的に課題解決に取り組み、自分の意見を深く追究できる子供の育成
国語(小)	豊田	冷田小	藤城　秀幸	物語文のおもしろさを仲間と共有し、進んで読み進めようとする児童の育成
国語(小)	豊橋	羽根井小	松下　華子	話し合いをする場を設定したり、ICT機器を効果的に活用したりすることで、自分の伝えたいことを整理し、表現できる子の育成
社会(小)	岡崎	六ツ美中部小	江本　　望	未来社会の形成者としての基本的な資質・能力を育むための新しい価値観に気付く姿の実現
算数(小)	豊田	大林小	舘山　俊平	「自ら選択して主体的に学習に取り組み、学んだことを日常生活に生かす児童の育成」
体育(小)	岡崎	矢作東小	野村　隼斗	基礎的な技能を楽しみながら向上させ、仲間と関わりながらできるようになる喜びを味わうことができる子どもの育成
保健体育(中)	岡崎	福岡中	後藤　麻由	仲間とともに運動する楽しさや喜びを味わい、自ら学びを深めていく体育学習
生活(小)	豊橋	大清水小	服部　誠也	体験活動を通して、気づいたことを関連づけることで、学びを深める子の育成
情報教育(小)	豊橋	中野小	川上潤一郎	ICTの活用や体験学習を通して、仕事の魅力について情報発信し、考えを深める子の育成

コンクール関係

みかわ彩発見絵画コンクール（秋・冬の部）

応募期間　令和７年12月15日㈪～令和８年１月13日㈫

かきぞめコンクール

応募期間　令和８年１月５日㈪～１月８日㈭

作品展（絵画・かきぞめ同時開催）

展示場所　三河教育会館

展示日時　令和８年２月６日㈮・２月７日㈯
午前９時30分～午後３時30分

優秀作品表彰式　令和８年２月８日㈰

使用報告・刊行物注文等締切

◇使用報告／冬休み日誌、かきぞめ手本、硬筆用紙、賞状
報告期間　令和７年12月９日㈫～11日㈭

◇令和８年度版刊行物第Ⅰ期当初注文
注文期間　令和８年１月７日㈬～15日㈭

□刊行物学校モニター研究調査報告締切
報告締切　令和７年11月26日㈬
※かきぞめ手本は令和７年12月12日㈮

□教育図書出版助成申請締切
申請締切　令和７年11月28日㈮

□郡市教育・研究助成、学校教育ボランティア助成等
報告締切　令和８年２月27日㈮

刊行物の名称が変わります

『修学旅行のしおり』から『修学旅行ガイドブック』へ

本書は、昭和46年度の初版より『修学旅行のしおり』の名称で親しまれてきました。しかし、学校ごとに作成する「しおり」との混同がみられたり、内容が名所等の詳しい解説中心に変遷したりするなどの背景から、名称について検討を重ねてきました。その結果、令和8年度版より『修学旅行ガイドブック』に名称を変更しますので、ご承知おきください。



「三河の先生応援ページ」のご紹介

※本法人ホームページ▶学校関係用▶三河の先生応援ページと進んでください。
パスワードは、各校に通知済みです。

「デジタル採点支援システム」関連

文振が提供しているデジタル採点支援システムにかかわる情報をお届けします。

○ 学習類・演習類の「文振版リアテンダント」用DATデータの準備ができました。
各学校ごとの教材PDFダウンロードサイトよりダウンロードしてご利用ください。

「文振版リアテンダント」のこれまでの経緯や資料、詳しい内容等は下のリンクよりご覧ください。

活用中の先生方の声　「文振版リアテンダント」の部屋　（これまでの情報ページへ）
ICT講師派遣チラシ

「文振版リアテンダント」を使った先生方の声を動画で視聴できます。

ご採用に向けて

期間限定ですべての刊行物の内容をお見せします。この機会に、内容をしっかり見て８年度版の注文の参考にしてください。
↓をクリックすると、刊行物ごとに各学年の見本をみることができます。

小学校刊行物の見本（令和７年度版）
中学校刊行物の見本（令和７年度版）
学習・演習類ルビ試行版

令和7年度版刊行物の見本をPDFで閲覧できます(一部除外)。また、学習・演習類のルビ試行版もダウンロードできます。

顧問の交代について

令和7年9月に、本法人の顧問が交代しましたので、お知らせします。

退 任　岩月　慎自
就 任　水越　光久



訂正とお詫び　138号Ｐ9の「教室の窓辺」に掲載された写真のキャプションに誤りがありました。訂正してお詫び申しあげます。
（正）地域の方々からの協力品によるバザー　（誤）「新城軽トラ市」で発信する子どもたち

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化　令和7年11月1日号　No.139
発行／公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868　岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
TEL 0564 - 51 - 4819
https://www.bunsin.org

※QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。